

★生き物の今を生きる姿から学べること★



天高く空が澄み、清々しい秋の季節となりました。保護者の皆様はいかがお過ごしでしょうか。実りの秋真っ盛り。店頭には産地の銘柄米が続々と入荷されています。備蓄米に慣れてしまったためか値札を見たとき、購入に二の足を踏んでしまいます。昨今話題になっている米の適正価格。今後どのように決着するのでしょうか。各方面での議論が尽きません。



犬の十戒

1. 私の寿命は10～15年ほどです。あなたと離れている時間はとても辛いことです。一緒に暮らす前に離れている時間のことを考えてください。
2. あなたが私に求めていることを理解できるようになるまで時間をください。
3. 私のことを信じてください。私にとって、信じてもらうことが何よりの幸せなんです。
4. 長い時間叱ったり、罰として閉じ込めたりしないでください。あなたには私以外にも友だちがいて、仕事や遊びで気晴らしができるかもしれませんが私にはあなたが全てなんです。
5. いっぱい話しかけてください。あなたの話す言葉は理解できなくても、声を聞けば話しかけてくれているということはわかります。
6. 私にどのように接したか考えてみてください。私はあなたがしてくれたことを忘れません。
7. 叩く前に思い返してください。私はあなたの手の骨を噛み砕くことができますが、決してあなたを傷つけないようにしています。
8. 「言うことを聞かない」「手に負えない」「なまけものだ」と怒る前に、原因があるのではないかと考えてみてください。ごはんをもらえていなかったり、日差しが強い状況に長い時間放置したりしていませんか？もしかしたら、老いて弱ってきているかもしれません。
9. 私もあなたも年を取れば同じようになります。年を取っても、どうかお世話をしてください。
10. 最期のお別れの時には、私と一緒にいてください。「つらいから見られない」なんて言わないでください。一緒にいてくれるだけで幸せで、どんなことでも受け入れることができます。そして、私はいつまでもあなたを一番に愛しているということを、どうか忘れないでください。

私事ですが、この7月から毎夜「げんちゃん」という名の犬と「散歩」をしています。ご近所に住む12歳のジャックラッセルテリアという犬種。人間でいえば60歳を超えるくらいの年齢。一人暮らしのおばあさんに飼われていましたが約3年前に逝去され、以来敷地内の外で犬の一匹暮らし。近くに住む息子さんが車で1日に1回餌やりに来ていたある日、意を決して散歩を打診したところ快諾してくれた次第です。

「げんちゃん」のことはずっと前から知っていました。通り過ぎるたびにワンワン吠えるものだからそっと素通りしていました。今年5月のある朝。吠えられた瞬間に立ち止まり、しゃがんで目を見合わせてみました。すると目を大きく見開き両耳を垂らして尻尾をフル回転させ、柵越しに近寄ってくるではありませんか。これまで吠えていたのは警戒や威嚇ではなく、仲良くなりたいメッセージだったのだとわかりました。今ではすっかり同世代？の「親友」です。

京都市動物園には全盲の保護亀がいます。1980年に救出されてから45年の長きにわたり園で命を繋いできました。「動物福祉」を重視し、動物本来の性質を発揮できるようストレス軽減に努めてきたそうです。「げんちゃん」にも重なる今を健気に生きる姿。さあ、今宵も星空のもとでお散歩しながら何を語り合おうかなあ。

『犬の十戒』 作：ノルウェーのブリーダー Mrit Teigen 犬の側から飼い主に語りかけている詩 … 命を預かる者の使命です

10月6日（月）は中秋の名月。豊作を祈り自然の恵みに感謝する日です。秋の味覚をお供えし、観月を予定されているご家庭もおありのことでしょう。晴夜に輝く満月、期待したいです。 文責：寺沢 光明